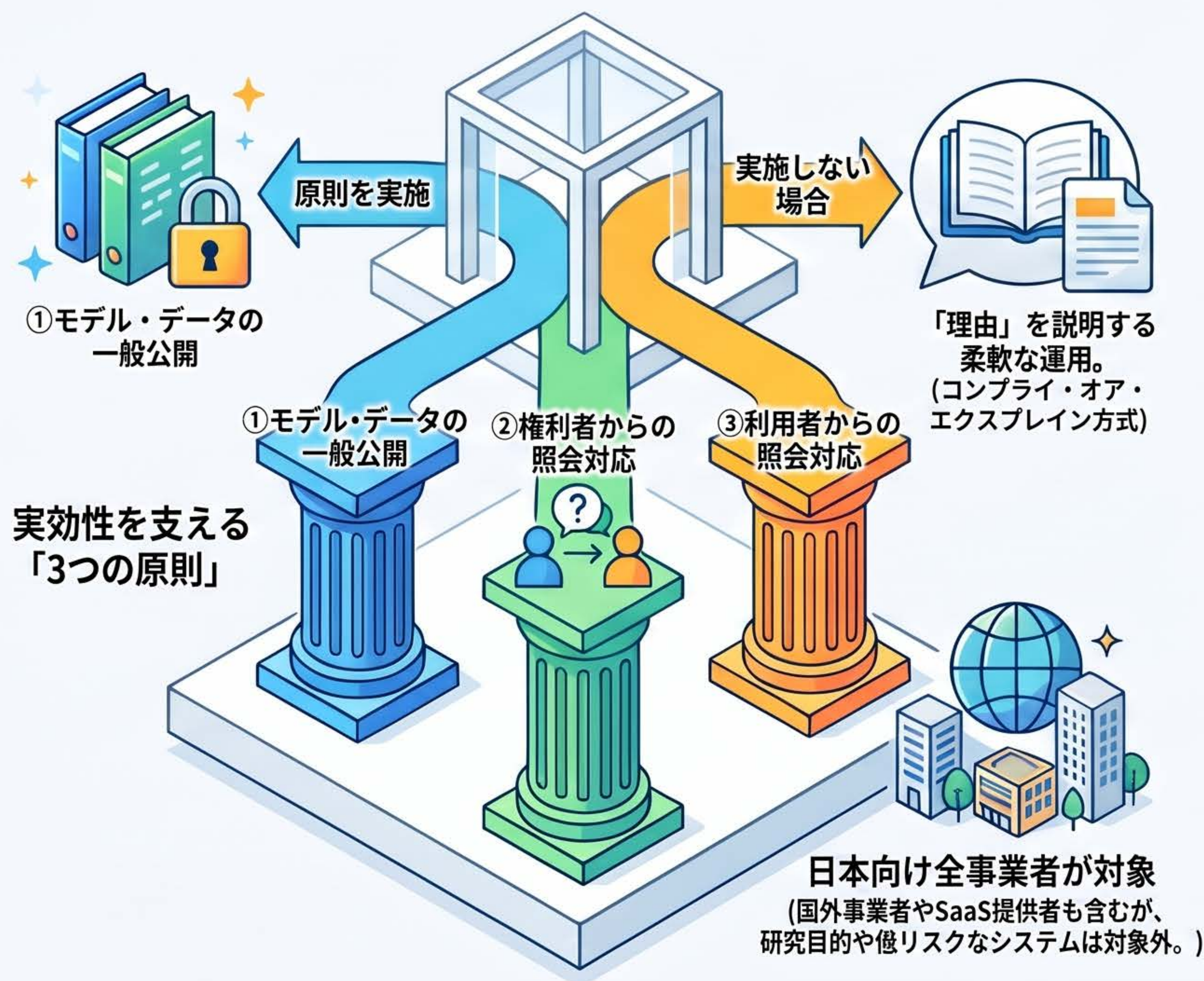


生成AI知財プリンシプル・コード：透明性と対話の新たな枠組み

2026年8月に公表された、生成AIの透明性向上と知的財産保護を目的とした日本政府のソフトロー。法的拘束力はないが、事業者
「実施状況の公開」または「実施しない理由の説明」を求める仕組みを通じて、権利者と事業者の対話の入口を作ることを目指しています。

制度の根幹：3つの原則と「説明」の仕組み



総合評価と今後の実効性の課題

透明性の「見える化」への大きな前進



学習データや知財保護措置の概要を公表し、市場の評価に委ねる点を高く評価。

透明性の設計: 4 / 5

(モデル、学習データ、クローラ、知財措置を広く対象化)

執行・実効性: 2 / 5

(任意参加で罰則がなく、各事業者の自主的な対応に依存)



権利救済と技術的追跡の限界



任意参加・罰則なしのため、URL単位の追跡や侵害立証には依然として課題が残る。

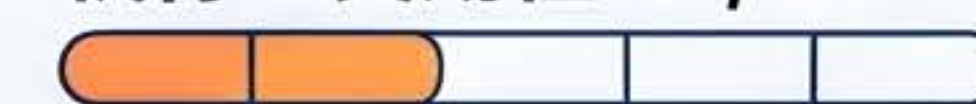
権利救済への有用性:



権利性の設計: 2 / 5

(照会範囲が限定的であり、作品そのものの学習証明は困難)

執行・実効性: 2 / 5



(任意参加で罰則がなく、各事業者の自主的な対応に依存)



運用実績に基づく「段階的法制化」
参加率や回答品質のKPIを測定し、不十分な場合は将来的な法制化も検討。